

kanagawa ARTS PRESS

神奈川芸術プレス Vol.139

12|1
2017・2018



谷賢一
CREATOR'S VOICE 158

KAT 神奈川芸術劇場プロデューサー「三文オペラ」

撮影:末武和人

奇跡のバックステージミュージカル「HEADS UP!」が帰ってくる!
創造力が出会い、交差する——ミュージック・クロスロード
住民が自発的に整備し成功した街づくり——元町商店街

隔月刊:奇数月15日発行

大いなる謎・ブレヒト劇を介し
演劇と観客の新しい関わり方を模索する

「三文オペラ」

KAAT神奈川芸術劇場

谷賢一

劇作家・演出家・翻訳家



劇作家、演出家、翻訳家として自
はもちろん、サイズ感もさまざまな演劇
の現場で活躍するクリエイター谷賢一。
KAAT神奈川芸術劇場には既に『ペー
ル・ギユント』など、芸術監督・白井晃
とのタッグで貢献しているが、2018
年1月、KAATプロデュース作での演
出家デビューを果たす。ホールの大空間
で谷が挑むのは、現代演劇の巨人ベルト
ルト・ブレヒト作『三文オペラ』だ。

社会システムの歪みと暗部や、人間の
深層にある矛盾と悪を暴き、シニカルか
つユーモアたっぷりに告発するブレヒト
劇を介し、「演劇でしかない表現を観
客と共有し、突き詰めたい」と考える白
井芸術監督のバトンを受けた若き野村家
は、どんなプランを温めているのか。

僕のKAATデビューは『LOST
MEMORY THEATRE』（14年）で、それ
が白井晃さんの初仕事でもありました。
三宅純さんの楽曲を起点とした舞台とい
うことで、白井さんの中にあるイメージ

を言語化する、作品の土台づくりを作家
としてご一緒させていただいた。劇場内
の小部屋に二人で缶詰になり、時には半
日以上共に過ごす。演劇人とは思えない
ジェントルな物腰に感銘を受けつつ、ど
こか「クラスが違う」感のある白井さん
に対し「カレーみたいな庶民の食べ物も食
べるんだ」というような、妄想を解消す
る良い機会でもありました（笑）。

長く一緒にいれば当然、『LOST』以外
の話題にも及ぶことになり、アングラや、
小劇場の各世代を築いた代表的な演劇人
をどう思うか、今の日本や海外各国の演
劇シーンをどう捉えているか、最近観て
面白かった作品は何か、互いの演劇観な
ど、演劇だけでなく時には個人的なこと
まで、広範なお喋りは創作とは別の楽し
みになっていました。

その中で、僕の世代を含めた「最近の若
手演劇人は大劇場（での創作）に関心が薄
いのでは？」という白井さんの指摘があり
まして。確かに周囲を見回してみると、自
分が影響を受けたような40代前後の創作・



谷 賢一 Tani Kenichi

1982年、福島県生まれ。作家・演出家・翻訳家。日本演劇作家協会・事業委員。明治大学演劇学専攻、およびイギリスの大学で演劇学を学ぶ。2013年に『最後の精神分析』の翻訳・演出。第6回小田島雄志翻訳戯曲賞と文化庁芸術祭優秀賞を受賞。近年の代表作は、ホリプロ『わたしは真悟』（脚本）（KAAT/新国立劇場）、『パール・ギュント』（翻訳・上演台本）（KAAT）、PARCO『マクベス』（演出補）他多数。



演出家で、中・大劇場をベースに活躍する方の数は限られている。さらに世代が下がると、その傾向は「層顕著」になっていくと改めて認識することになったのですが、自分は真逆の志向の持ち主。以前から、大空間を使いこなせる演出家になりたいと思っていましたし、アート系の尖った作品ではなく、演劇ファン以外にもリーチできる間口の広さを持った演劇作品が創りたいと常々思っていたんです。演劇の観客を増やしていきたいし、「わかる人にだけわかればいい」とは思いたくないので。

そんな思いを話していたところ、白井さんは『OST』以降も私の公演をほぼ欠かさず観に来ては必ず感想や意見をくれ、演劇についてたくさん話をさせてもらいました。その後『ペール・ギュント』（15年）の上演台本で再び一緒にする中で、「いつかホールで」という話を何度か聞いた。最終的には、白井さんが「機が熟した」と判断してくださったのかどうかはわかりませんが、「18年1月にホールで谷の演出作を」と、企画が固まったのです。

ブレヒトという

大いなる「謎」に挑む

作品は、白井さんからさまざまな戯曲

を貸していただいたり、自分でシェイクスピアを読み直して提案したりと、決まるまでにやはり紆余曲折がありました。面白いものは幾つもあったのですが、どうしても自分の中で上手く着地しなくて。

あれは『ペール』の時だったか…… K A A Tの中をウロウロしていたところ、白井さんと立ち話になり、その時偶然『三文オペラ』の話題になったんです。僕にとっても以前から興味のある作品だったので「やりたいです!」と、それまでの迷走が嘘のようにスパッと話は決まりました。

意外かも知れませんが大学時代は演劇学というものを専攻しておりまして、こう見えて演劇史や演劇論をきっちり勉強しているんです(笑)。中でも『三文オペラ』の作者であるベルトルト・ブレヒトは、演劇を学ぶ者にとっては凄まじく大きな「謎」として立ちほだかるもの。彼の戯曲は本当に特殊だし、確立した異化効果(観客に登場人物や物語への安易な感情移入を許さず、客観的かつ批判的な視点で観てもらおうという手法)や独自の演劇論など、研究すべきことは山ほどある。

実際イギリス留学中も、ブレヒト作品は講義のテーマになることが多かった

「三文オペラ」

2018年1月23日(火)～2月4日(日) KAAT神奈川芸術劇場(ホール)

作:ベルトルト・ブレヒト 音楽:クルト・ヴァイル

上演台本・演出:谷賢一

音楽監督:志磨遼平(ドレスコース)

出演:松岡 充 吉本実憂 峯岸みなみ

貴城けい 村岡希美 高橋和也 白井晃 他

全席指定 S 7800円 A 6000円 U24 (24歳以下) 3900円

小学生以上高校生以下1000円(当日指定席引換・要学生証) シルバー(65歳以上)7300円 他

www.artspress.jp

WEB
+α!このマークの記事
にはWEB版だけの
+αコンテンツも!WEB
+α!

し、実演の題材として上演したりもしたので、常に興味の対象でした。しかし理屈だけ知っていても自らの手で上演しなければ、本当に「謎」を解いたことにはなりませんよね? 『三文オペラ』は比較初期の作品で、異化効果や叙事詩的演劇など、ブレヒトが後に築き上げる演劇理論が荒削りながら力強く提示されている。いつか必ず取っ組み合いをして、謎を解き明かしたいと思っていました。

ブレヒトの演劇理論の核は、平たく言えば「観客との関係の持ち方を、今までの演劇と変えていこう」ということです。観客との関係の持ち方は、ここ数年ずっと僕の中でもテーマでしたし、自分なりの実験を続けていました。ルーツにあたるブレヒト劇で、これまでの試行錯誤の成果をさらなる実践へと昇華したいと思っています。

「強い味方」と緊張感のある稽古を

そもそも、観客との関係の持ち方を見直そうと思ったのは、演劇に対して感じていた自分なりの危機感からです。僕、うかうかしていると演劇の観客は減るばかりだと思っています。データを見れば減少、増加の両方がありますが、現場の人

間としては、かなり危ないと感じています。見回せば無料で、家から一歩も出ずにあらゆる娯楽にアクセスできる環境が整っていく中で、わざわざ家を出て移動して高い金を払って観る演劇を選び取ってもらったためには、「同じ時間と空間を共有する」「目の前で今、まさに起こっていることを目撃する」など、演劇固有の魅力にどっしり軸足を置いた作品を創り続けないと、客離れは確実に進んでいく。向こう5年とかじゃなく、30年くらいの長いスパンで考えた時に、ですが。

白井さんも同じブレヒト原作の『マハゴニ―市の興亡』(16年)の演出で、果敢に観客との境界線を侵していましたね。先にやられた悔しさと共感が同時にありました。僕もまた別の視座から、しかし同じ「観客との関係」というテーマに挑みたいと思っています。

具体的に考えているのは「観客が演劇に荷担する瞬間」を随所に作りたいということ。劇中、乞食たちの反乱により国家権力をひっくり返す場面があります。格差社会とホビュリズムがこれだけ問題になっている現代社会にとっても重なるって見える。劇中の登場人物と共に上げるべき「声」を、お客さまも絶対にお持ちだと思っんです。なので、「乞食席」お

よび「みんなで歌おう三文オペラ!」(笑)と今は呼んでるんですが、演劇行動に荷担する特殊な客席をすることで、作品を二重に異化して見せたいとさまざまな企みを施しています。

キャストはまだ主演の松岡充さん以外発表されていませんが(取材時)、白井さんが俳優として出演してくれそうです。これがまた二重に面白い効果を生むはずで。今までの関係に甘えることなく、緊張感のある稽古場にしたいですね。

my theater myself

私にとつてのKAAT神奈川芸術劇場

やはり、白井さんと臨んだ「合宿」がインパクト大ですね。6時間から最長で10時間、劇場の小部屋に二人でこもってパソコンを叩いたり、余談に花を咲かせたり。その間、ベッドこそ共にしませんでしたが(笑)、演劇人の大先輩・白井晃を知り、その経験から学ぶ貴重な時間でした。一つ衝撃的だったのは、白井さんと僕が好きになる女性に「ある共通点」があったこと。初めて聞いた時には、驚いて鳥肌が立ちました。中身は内緒です(笑)。

取材・文:尾上そら 撮影:末武和人



大空ゆうひ(女優)

池田純矢(アルバイトくん)

橋本じゅん(演出部)

哀川翔(舞台監督)

相葉裕樹(舞台監督)

青木さやか(制作)

中川晃教(劇場付雑用係)

ミュージカル「HEADS UP!」

KAAT神奈川芸術劇場

第23回読売演劇大賞 優秀演出家賞受賞!

「また観たい!」の熱望に奇跡のバックステージミュージカルが帰ってくる!

2015年11月にKAAT神奈川芸術劇場で初演された日本生まれのオリジナルミュージカル「HEADS UP!」。とあるミュージカルの仕込みから閉幕後のバラシまでを描いた、「風変わったバックステージエンターテイメントです。そこに生き生きと描かれるドラマは、ミュージカルファンのみならずエンタメを愛する全ての人々を魅了しました。初演はわずか12公演ながら瞬く間に評判は広がり、大盛況のなか幕を閉じました。芝居・楽曲・ダンスと三拍子揃ったオリジナルミュージカルの質の高さに注目が集まり、第23回読売演劇大賞 演出家部門 優秀賞を受賞。爆笑を呼ぶ劇中劇、心に染み入る歌の数々、劇場を出るころには思わず口ずさみたくなるナンバーに惹きつけられたファンからの「また観たい!」という熱望にお応えする形で、この度の再演が決定しました。

原案・作詞・演出は、1986年から舞台創作に活動の場を広げ、さまざまな作品を多数創りつづけてきたラサール石井。舞台作品に携わるたびに、スタッフワークの厳しさや苦勞、そして何よりプロフェッショナルとしての静かなる矜持に感じ入り、いつかこのスタッフワークを中心にした物語を創りたい、と

9月26日に行われた製作発表の様子



ミュージカル「HEADS UP!」

2017年12月14日(木)～17日(日)

KAAT神奈川芸術劇場〈ホール〉

脚本:倉持 裕 原案・作詞・演出:ラサール石井

作曲・音楽監督:玉麻尚一 振付:川崎悦子

出演:哀川翔 / 相葉裕樹

橋本じゅん 青木さやか 池田純矢

今 拓哉 芋洗坂係長 オレノグラフィティ 陰山 泰

岡田 誠 河本章宏 新良エツ子 井上珠美 外岡えりか

大空ゆうひ 中川晃教 他

全席指定 S 9800円 A 8000円 B 6000円 U24(24歳以下)4900円

小学生以上高校生以下1000円 シルバー(65歳以上)9300円



構想を10年以上温め続けました。

そして、舞台「英国王のスピーチ」(2012)に自身が出演した際、脚本を手掛けたベンギンブルペイルパイルズ主宰の倉持裕の才知に惚れ込み構想の脚本化をオファー、ミュージカル化が実現したのです。

楽曲を手掛けるのは、これまで150作品を超えるオリジナルミュージカルの作曲を手掛けてきた玉麻尚一。耳馴染みの良さはもちろん、名作ミュージカルを彷彿させるオマージュ曲まで、幅広い曲調で作品に彩りを添えます。

笑いをちりばめながら、登場人物それぞれの心情を丁寧に描き、いつの間にか心地よい興奮にみちびいてゆくラサール石井の演出とクリエイター陣の見事な化学反応に、どうぞご期待ください。

主演は、男気溢れる硬派な魅力の哀川翔。初演で人生初のミュージカルながらも、共演者からも「アニキ」と慕われるリーダーシップで、ベテラン舞台監督役を見事に演じ切りました。共演は、人気のミュージカル「レ・ミゼラブル」30周年記念公演での活躍も記憶に新しい相葉裕樹。劇団☆新感線の看板役者であり、映像作品でも活躍する橋本じゅん。そして、確実な演技で舞台女

優の階段を昇り続ける「元宝塚トップスター」大空ゆうひ。第24回読売演劇大賞最優秀男優賞を受賞し、類い希なる歌声を持つ中川晃教。さらに女優としての活躍も目覚ましい青木さやかから、初演に引き続き個性豊かなメンバーが集まりました。

今回が初参加となるキャストは、注目の若手俳優であり声優として活躍・演出家としても活動する池田純矢。「劇団鹿殺し」のメインキャストであり音楽にも才能を発揮するオレノグラフィティ。元「アイドリング!!!」の外岡えりかなど、フレッシュな顔ぶれです。新たなキャストが参加することによる、新しい風にも、どうぞご期待ください。

「ストーリー」

舞台本番当日、姿を現さないヒロイン女優にワガママ放題のベテラン主演俳優。

無茶を言い張って譲らない演出家、そもそも到底足りない製作予算……。

とどめは開幕数時間前だというのに舞台セットが到着していない!?

新米「舞台監督」デビュー作は問題山積! 果たして無事に幕は開けられるのか……!?



2015年前回公演より

Photo: 國田茂十



山本和智



森 円花

©Shigeto Imura



一柳 慧

©Koh Okabe

神奈川芸術文化財団 芸術監督プロジェクト ミュージック・クロスロード

神奈川県立音楽堂

三世代の作曲家による三つのコンチェルト いくつもの創造力が出会い、交差する

今を問う「芸術監督プロジェクト」

神奈川芸術文化財団の二人の芸術監督による「芸術監督プロジェクト」。

2018年1月は、舞台芸術の先端を生きる一柳慧財団芸術総監督が音楽監督としてコンサートを企画、白井晃K A A T 神奈川芸術劇場芸術監督が空間構成を監修します。

「芸術は今、どこに立っているのか?」。長年にわたる活動を経ながら、つねに根本的な問いに向かい合い若々しい情熱を燃やす一柳は、20代、40代、そして一柳自身である80代の三世代にわたる作曲家による三つの協奏曲を選曲しました。立脚点の異なる三人の協奏曲を通じて、「今を生きる」表現を探求するコンサートが実現します。

変革をもたらすエネルギーを持つ作曲家

一柳が「従来のやり方や状況を変えるエネルギーを発している」と語る二人の作曲家は森円花と山本和智です。

1994年生まれの一柳は、今春桐朋学園大学院を修了、同大の講師を務める才媛。「音のアトリウムⅢ」独奏チェロとオーケ

神奈川芸術文化財団 芸術監督プロジェクト ミュージック・クロスロード

2018年1月20日(土) 14:00 神奈川県立音楽堂

音楽監督:一柳 慧(神奈川芸術文化財団 芸術総監督)

空間監修:白井 晃(KAAT神奈川芸術劇場 芸術監督)

出演:杉山洋一(指揮) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

一柳 慧(ピアノ) 上野通明(チェロ) 平田紀子、寺井結子、中島裕康(箏)

森 円花:音のアトリウムⅢ〜独奏チェロとオーケストラのための〜(2018)

山本和智:3人の箏奏者と室内オーケストラのための「散乱系」(2015/17)

一柳 慧:ピアノ協奏曲第6番「禅-ZEN」(2016)

全席指定 一般4000円 特別ペア 7000円 U24(24歳以下)2000円 (特別ペア、U24は枚数限定)

※未就学児童入場不可(有料託児サービス有り・要事前予約)



ストラのための〜」(2018)は、若干20歳で2014年の日本音楽コンクール作曲部門第2位を授賞しました。「より強い伝達力」を目指し現在さらに推敲を重ねているという同作品で森は、ソリストを主軸とする協奏曲様式を踏襲しつつ、その伝統とは異なるソリストとオーケストラの関係性を構築し、「ソリストとオーケストラが共にさまざまな音のアトリウム(空間)を創造することを目指しています。」

山本和智は1975年生まれ。武漢徹作曲賞第2位ほか国内外の作曲コンクールで入賞、国内外で積極的に作品を発表しています。作曲は独学という経歴にふさわしく、既成概念にとらわれないアイデアで現代音楽界の衆目を集める逸材です。「3人の箏奏者と室内オーケストラのための『散乱系』」(2015/17)は、ソロの3奏者にそれぞれ2面の箏をおき、それぞ



山本作品では37本の絃が舞台から客席天井に伸びる

れの1面の箏からは絃を舞台から客席の上を抜け会場奥の天井へと張り出させるという前代未聞の演奏空間が準備されます。「糸によって客席まで音源を延長させた箏」(山本)から空間全体に「散乱」する音響を体験する唯一無二の機会です。

総決算かつ新境地でもある一柳作品

一昨年、一柳のピアノ・ソロで初演された「ピアノ協奏曲第6番『禅-ZEN』」(2016)は、1950年代には実験音楽家ジョン・ケージと活動を共にし、その後も創作の最先端を担ってきた一柳の創作の総決算であり、かつ自身の枠を越えていくという意志を実現させた作品。

一柳は、ピアノ・ソロの一部を図形楽譜で書き各セクションの演奏順序を自由に変えながら、特殊奏法を用いるという前衛的手法を駆使しています。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団の指揮は、ミラノと東京を拠点に活躍する杉山洋一。作曲家である杉山の作品への深い洞察力は現代音楽界屈指と評されています。3作品に宿る創造力により閃きを存分に引き出してくれるでしょう。

創造力の出会いの交差点 クロスロード

会場となる神奈川県立音楽堂は、建築家ル・コルビュジエの弟子で第二次世界大戦後の日本モダニズム建築を牽引した前川國男の初期傑作という、時代に先駆けて人々の感性を新たな地平へと誘ってきた場所。「枠にとらわれない音の世界。大実験を味わって欲しい」と一柳が語る、この音楽の地平を拓くコンサートにうつつの場所といえるでしょう。

いくつもの創造力が出会う交差点となった県立音楽堂に、ぜひご来場ください。

文:川西真理

神奈川県民ホール・オペラ・シリーズ
「魔笛」関連企画

1時間で楽しめる「魔笛」ハイライト

神奈川県民ホール出張公演

2018年2月1日(木) 14:00 南足柄市文化会館小ホール
2月2日(金) 14:00 秦野市文化会館小ホール

演出: 太田麻衣子

出演: 高崎翔平(ザラストロ) 斉藤園子(夜の女王)

澤原行正(タミーノ) 横森由衣(パミーナ)

堤 智洋(パパゲーノ) 本田ゆりこ(パパゲーナ)

平塚洋子(2/1 ピアノ) 矢崎貴子(2/2 ピアノ)

全席指定 1000円

*「青島広志のたのしい名作オペラ講座」、宮本亜門演出「魔笛」の詳細はHPをご覧ください。



本田ゆりこ
(パパゲーナ)



堤 智洋
(パパゲーノ)



横森由衣
(パミーナ)

©Shigetomo Imura



澤原行正
(タミーノ)

©T.Tairadate



斉藤園子
(夜の女王)

©Yoshinobu Fukaya/aura.Y2



高崎翔平
(ザラストロ)

「魔笛」は、世界で最も愛されているオペラといわれており、誰もが耳にしたことのある珠玉のアリアが散りばめられたモーツァルトの最高傑作です。でも上演時間は約3時間、チケット料金も決して安くはない……となると敬遠している方もいるはず。そんな方にオススメなのが「魔笛」の聴きどころを約1時間に凝縮したハイライトコンサート。チケット料金も1000円とお得です！

出演者にはフレッシュで確かな実力を持つ期待の歌手が揃いました。本場ドイツの歌劇場で経験を積んだ太田麻衣子による演出とわかりやすい字幕解説付きで、オペラ初心者の方からオペラ通まで、どなたでも満足いただける内容になっています。ぜひお気軽にお出かけください。

そしてさらに「魔笛」を楽しみたい方は、出張講座「青島広志のたのしい名作オペラ講座」をどうぞ。3月にはオーストリア・リンツ州立劇場で4万人を動員した、宮本亜門演出の「魔笛」も上演されます。まさに「魔笛」三昧の早春はいかがでしょうか。

口口本公演 vol.14 「旅、旅旅」(仮)

KAAT神奈川芸術劇場



口口vol.13 「BGM」より

©三上ナツコ

2009年より東京を拠点に活動中の口口がKAATIに初登場！ 漫画・アニメ・小説・音楽・映画などジャンルを越えたカルチャーをパッチワークのように紡ぎ合わせ、さまざまな「出会い」の瞬間を物語化。今回は、2010年に初演された家族の再生と再構成を、演劇の「見立て」の力を利用しながら語る「旅、旅旅」を上演します。

2018年1月12日(金)～21日(日) (大スタジオ)

脚本・演出: 三浦直之

出演: 板橋駿谷 亀島一徳 篠崎大悟

島田桃子 望月綾乃 森本 華 (以上口口)

猪俣三四郎(ナイロン100°C)

北川 麗(中野成樹+フランケズ) 宮部純子(五反田)

全席自由・入場整理番号付 一般4000円

U25(25歳以下)3000円 (以上+当日500円増)

小学生以上高校生以下1000円



音楽堂「メサイア」2016年公演より

©青柳 聡

第52回クリスマス音楽会
「メサイア」
全曲演奏会

神奈川県立音楽堂



2017年12月10日(日) 14:30

出演: 小泉ひろし(指揮)

山口清子(ソプラノ) 上杉清仁(カウンターテナー)

中嶋克彦(テノール) 加未 徹(バリトン)

長久真実子(チェンバロ) 宇内千晴(オルガン)

管弦楽: 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

合唱: 神奈川県合唱連盟 音楽堂「メサイア」未来プロジェクト合唱団(高校生)

全席指定 一般1500円 ※未就学児入場不可

クリスマス恒例の公演、「メサイア」全曲演奏会。本演奏会は、1966年から現在まで50年以上続く、神奈川県立音楽堂の伝統的な公演として愛されています。2011年からは、県内の高校生が合唱に参加し、伝統を次の世代へ継承する「音楽堂『メサイア』未来プロジェクト」を開始しました。毎年参加校は少しずつ交代し、体験がリレーされています。今年も、県立光陵、県立多摩、法政大学第二高等学校、県立相模原中等教育学校が参加します。未来を担う高校生から超ベテランまで世代を越えた約160名の大合唱。瑞々しくも重厚感のある歌声を、木の温もり溢れる音楽堂でお楽しみください。



Photo:上原タカシ

2018年4月8日(日)~6月30日(土) 公演分 〈ホール〉

出演:劇団四季

全席指定 S 11880円 A、サイドA 8640円 B、サイドB 6480円 C、サイドC 3240円

サイドイス付立見 3240円



劇団四季ミュージカル
「ノートルダムの鐘」
2018年4月8日(日) 開幕

KAAT 神奈川芸術劇場

世界的な文豪、ヴィクトル・ユゴーの代表作に着想を得たミュージカル「ノートルダムの鐘」。15世紀末のパリを舞台に、ノートルダム大聖堂の鐘楼に住むカジモド、その彼を密かに世話する大聖堂聖職者フロロ、同警備隊長フィバス、そして、その3人が愛するシブシーの娘エスメラルダが織りなす、愛の物語。深く美しい人間ドラマと、作品を盛り上げる美しく荘厳なナンバーを横浜でお楽しみください。

第3回 神奈川かもめ短編演劇祭

KAAT 神奈川芸術劇場



第2回最優秀作品賞受賞作品
「しらすのうちに」より

2018年1月25日(木)~1月28日(日)

〈大スタジオ〉

出演:チリアクターズ

(第2回最優秀作品賞受賞団体) 他

全席指定

一般3000円 U24(24歳以下)2000円

12月中旬発売開始

神奈川かもめ短編演劇祭は、2016年に始まった20分以内の短編作品を上演する演劇祭です。全国からのバラエティに富んだ作品の数々を一度に鑑賞できます。審査には、専門家に加えて、観客の皆さまにもご参加いただけます。観劇も審査も楽しめる、またとない機会。ぜひお越しください。



竹本駒之助 2016年2月公演
「日蓮聖人御法海」より
Photo:西野正将

2017年12月23日(土・祝)~24日(日)

〈大スタジオ〉

出演:竹本駒之助/鶴澤津賀寿

全席自由

一般4000円 U24(24歳以下)2000円

小学生以上高校生以下1000円

KAAT竹本駒之助公演 第九弾

『奥州安達原』三段目切「袖萩祭文の段」

KAAT 神奈川芸術劇場

文楽や歌舞伎でおなじみの「義太夫節」を女性によって演奏する女流義太夫。太夫の語りと義太夫三味線だけで役を演じ、物語を展開する「素浄瑠璃」という上演スタイルでお届けする本シリーズもいよいよ第九弾。駒之助の語りの力と義太夫節の魅力をぜひご堪能ください。



2017年1月
前回の舞台技術講座の様子より
Photo:西野正将

2018年1月9日(火)~12日(金) 〈ホール〉

PROGRAM A シリーズ「舞台技術者の国際協働」

1月9日(火) A-1「テクニカルライダーって何ですか」

1月10日(水) A-2「舞台技術者の海外研修」

PROGRAM B シリーズ「劇場に潜む危険を学ぶ」

1月11日(木) B-1「劇場人のヘルスケア - 実践・現場のケガの応急処置」

1月12日(金) B-2「客席空間の安全を考える」

対象:舞台技術スタッフとして活動されている方(所属問わず) 劇場・実演団体等の管理運営業務・企画制作等の職務にある方

申込み詳細はHPでご確認ください。

KAAT舞台技術講座2018

KAAT 神奈川芸術劇場

KAAT舞台技術講座は、プロフェッショナルとして活動している舞台技術者が、専門分野を超えて視野を広げ、スキルアップするための場として継続的に企画・開催しています。今回は、大きな二つのテーマ、「舞台技術者の国際協働」と「劇場に潜む危険を学ぶ」に沿って、四つの講座を行います。所属を問わず、舞台技術スタッフとして活動されている方、そして劇場・実演団体等の管理運営業務・企画制作等の職務にある方の参加を広く募集します。

知れば、
知るほど、
好きになる

音楽の小箱

特殊奏法

「特殊奏法」とは、「通常とは異なる方法で楽器を演奏する」という音楽ではよく使う言葉。しかし大きな音楽辞典でもこの項目はありません。楽器は英語で「instrument=道具」といいますが、道具がつねにその使い方をさまざま工夫されるように、古今東西の音楽家もあらゆる楽器で



ケージ「打楽器とプリペアド・ピアノのための“アモーレス”」で内部奏法をおこなう一柳慧
2015年1月10日公演より(神奈川県民ホール)
©青柳 聡

「特殊奏法」を編み出し音楽の表現を拓けてきました。このため辞書では、楽器ごとに「特殊奏法」の説明が必要となるからかもしれません。

「特殊奏法」を積極的に作品に取り入れた最も古い作曲家の一人は、今年生誕450年のモンテヴェルディです。彼は弦楽器の弦を弓で擦らず指ではじく「ピッツィカート」などいくつもの「特殊奏法」を用いて、当時の耳のこえたヴェネツィアの聴衆を驚かせました。

現代では、例えば20世紀前半にアメリカのヘンリー・カウエル(1897~1965)は、ピアノの鍵盤を手の平や拳、前腕等を使って弾く「トーン・クラスター(音塊)奏法や、ピアノ

内部に張られた金属弦を擦ったり叩いたりする「内部奏法」を発表しました。「内部奏法」は、カウエルの弟子であるジョン・ケージ(1912~92)により、金属弦の間にボルトやナット、木、ゴムなどを挿入することで鍵盤を押して出てくる音色や音の高さまでまったく変えてしまう「プリペアド・ピアノ」へと発展しました。

2018年1月20日に神奈川県立音楽堂で開催される〈ミュージック・クロスロード〉では、ケージとかつて活動を共にした作曲家・一柳慧の「ピアノ協奏曲第6番『禅-ZEN』」が演奏されますが、同曲にはこの「内部奏法」が出てきます。ぜひ聴きにいらしてください。

楽器ミュージアム

トランペット



ナチュラル・トランペット
左手を腰にあて、右手だけで楽器を持ち奏した

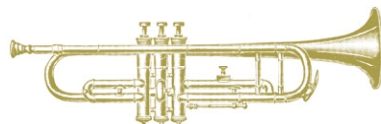
輝かしいファンファーレを高らかに奏するトランペットは、古代エジプト王の墓から見つかるほど歴史の古い楽器。戦場ではその勇ましい響きで敵を威圧し、ヨーロッパの王侯貴族は「権力の象徴」として宮廷お抱えトランペット奏者の人数を競い合いました。その当時のトランペット(ナチュラル・トランペット)は長い管の先が広がっただけのシンプルなもの、唇の動きや管に吹き込む息の速さだけで音の高さを変えていくため、出る音に限りがあり、また正確な高さの音を出すことは至難の技でした。

市民革命の時代を迎えた18世紀末、宮廷を離れた演奏家たちは、長

さの異なる管をいくつも用意して曲にあわせて差し替えるなど、しきたりに縛られず自由に楽器を改良していきました。19世紀に入ると、管を替えずに管の長さを即座に変更できる「バルブ」を取り付けるといった画期的な改良が施されました。

「バルブ」とは息の通り道を切り替えて管の長さを変える装置で、第1バルブを押すと1音下がり、第2バルブを押すと半音、第3バルブを押すと1音半下がります。

現在、バルブには「ピストン式(たて式)」と「ロータリー式(回転弁式)」の2タイプがあり、日本やアメリカ、フランスなどでは華やかで明るい



ピストン式トランペット
もっともよく使われるタイプは長さ50cmほど。曲げてある管を伸ばすと135cmもある

音が冴える「ピストン式」が一般的です。「ロータリー式」はバルブの機構から楽器を横に寝かせて構えるのですが、木管や弦楽器にもよく溶け合う柔らかな響きで、ドイツやオーストリアなどではこのタイプが普及しています。トランペットを見かけたならその形状にもご注目。



ロータリー式トランペット
円筒形のバルブを回転させて管の長さを切り替えるため、バルブを指で押さえるレバーの位置がピストン式と異なる

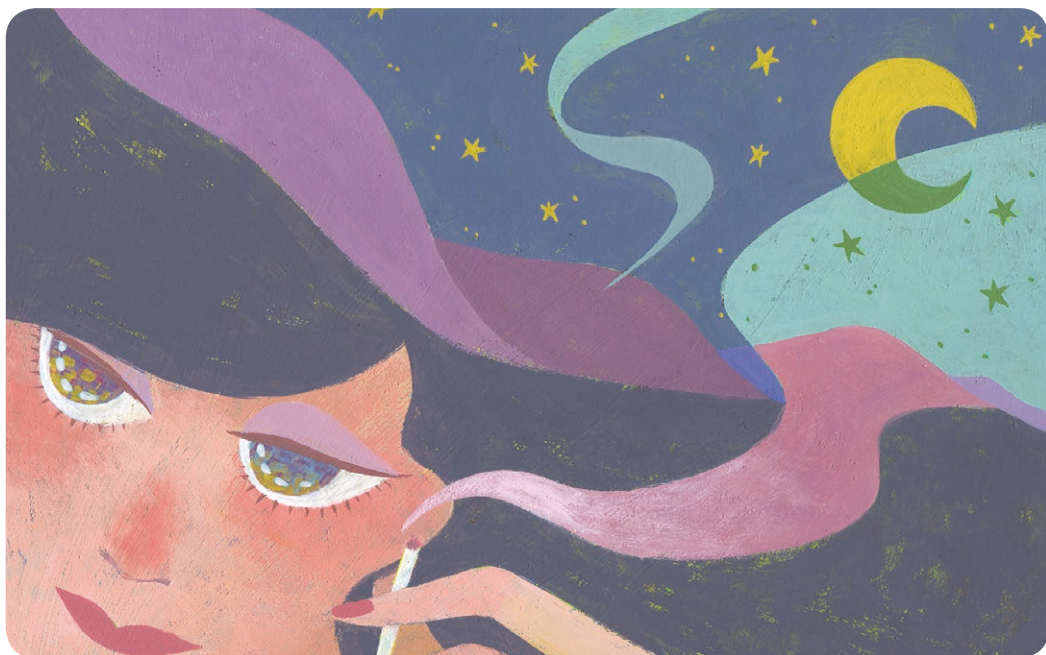


イラスト:遠藤裕喜奈

クルト・ヴァイル 「アラバマ・ソング」

1924年の夏、新進気鋭の作曲家クルト・ヴァイルは、次回作のためにとある劇作家を訪ねます。そこで女優ロッテ・レーニャと出会うのです。

二人の境遇は全く違いました。ヴァイルは裕福なユダヤ人家庭に生まれ、ベルリン音楽学校やプロイセン芸術院で学んだエリート。一方、2歳年上のロッテはウィーンの貧しい労働者の娘で、幼少期から父親の虐待をうけ、11歳の頃には街角に立っていたといいます。しかし、出会いの年の暮れには二人は共に暮らし始めます。

1926年、彼らは正式に結婚します。それは奇妙な夫婦生活でした。ヴァイルは作曲に取りかかると仕事部屋に引きこもり、妻にはまるで興味を示しません。ロッテは尋ねます「クルト、私を愛していないの?」。彼は答えます「音楽の次に大切なのは君だよ」と。そんな心の隙間を埋めるためなのか、彼女には常に複数の恋人がいました。そのことをヴァイルはすべて承知していたのです。

結婚の翌年、ヴァイルはドイツ室内楽協会主催の音楽祭に新作を委嘱されます。彼は劇作家ベルトルト・ブレヒトの詩集「家庭用説教集」に目をつけます。そして生まれたのがソングシュピール*「マハゴニー」*です。1927年7月17日、ロッテが歌ったのがあの名曲「アラバマ・ソング」。ヴァイルが彼女を念頭に書いて書いた曲です。この夜に第三帝国前夜のドイツを彩る「歌姫ロッテ・レーニャ」が生まれたのでした。

金が全ての背徳の街マハゴニー。劇場は歓声と罵声で二分されます。そんな混乱の中、幕切れて他の出演者が「戦争反対」、「専制政治打倒」といったプラカードを掲げる中、ロッテ・レーニャは何喰わぬ顔で「ヴァイルに賛成」と書いたプラカードを掲げたのでした。

クルト・ヴァイル Kurt Weill (1900～50)
ドイツ生まれのユダヤ系作曲家。コンサート作品の他に、演劇やオペラ、ミュージカルへの作曲で知られる。代表作はブレヒトと組んだオペラ「三文オペラ」、「マハゴニー市の興亡」、バレエ「七つの大罪」など。

*ソングシュピール:オペラ風のアリアでなく、アメリカの影響を受けた「ソング」を中心とした歌芝居。

*マハゴニー:この作品を元に2年後の1930年にオペラ「マハゴニー市の興亡」が生まれる。

山本理頭の街は舞台だ

元町 (横浜市 中区)

自分たちの街は自分たちでつくる

WEB +a!



自らの土地を提供し実現した軒下の歩道

取材協力：「横浜まちづくり倶楽部」理事長 近澤弘明

住所：神奈川県横浜市中区元町1丁目～5丁目
交通：みなとみらい線「元町・中華街」駅下車 すぐ
JR京浜東北線「石川町」駅下車 徒歩2分

1859年の横浜開港以来、外国人相手の商店街として、元町は文明開化と共に発展する。しかし、関東大震災、横浜大空襲、終戦、時代の変化により、何度も衰退の危機を迎え、そのつど住民たちの力で乗り越えてきた。

1955年、元町商店街は、全国初といわれる街づくりのルールを自らの手で作成する。行政主導ではない、住民たち自身による街づくりである。各商店が自らの土地を提供し、自主的に建物の1階部分を道路境界から1.8m後退させたのである。それによって生まれた軒下空間を活かし、雨の日でも楽しく買い物ができる街を生み出した。商店の命である売り場面積を小さくしてまでも歩道を確保したのだ。個々のお店の経済的利益はこの商店街全体にお客さんが来るようになり

企画・監修：山本理頭（建築家）



©Jake Walters

1945年生まれ。71年、東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了。東京大学生産技術研究所原研室生。73年、株式会社山本理頭設計工場を設立。2007年、横浜国立大学大学院教授に就任。11年、17年現在、横浜国立大学大学院客員教授。

なければ、そもそも成長を見込めない。便利で美しい街をつくることは個々の商店にとって死活問題なのである。それを元町商店街の人たちはよく理解していたのである。「モトマチ」は明治から続くハイカラでモダンな伝統とイメージを活かし、日本有数のファッション発信地となっていた。

元町に限らず街づくりの主役は、その地域に固有の地域経済を担ってきた住人たちなのである。ところが戦後の行政はそれを全く誤解していた。戦後復興は、戦災で壊滅的な被害を受けた都市の復興だった。そしてその復興されるべき都市は、もともとその地域住人が守ってきた地域経済のためではなく、グローバルな経済のための都市だった。それぞれの街の個性ではなく、どの街も同じように標準的な都市が目指すべき都市になっていったのである。

元町の成功はそうした標準化に対する抵抗だった。それは住民自らがつくったルールによって、自分たちの固有の街をつくるという強い意志だったのである。（談）



元町1～2丁目（彩色写真） 20世紀初頭
典拠：「100年前の横浜・神奈川」（横浜開港資料館蔵）

かながわ
芸 ● 能
歳時記

小正月の港町を彩る少女たちの舞

チャッキラコ

(三浦市三崎／海南神社／1月)

WEB
+a!



綾竹に鈴と短冊をつけた「チャッキラコ」で舞う

監修…神奈川県民俗芸能保存協会会長 石井一躬
協力…三浦市教育部文化スポーツ課
写真提供…三浦市教育部文化スポーツ課

住所: 神奈川県三浦市三崎4-12-11 (海南神社)
交通: 京浜急行「三崎口」駅から京急バス三崎港方面バスにて
「三崎港」下車 徒歩3分
日時: 2018年1月15日
お問合せ: 三浦市教育部文化スポーツ課 046-881-1111

チャッキラコは、毎年1月15日の小正月に三浦市三崎の海南神社と仲崎・花暮地区で行われる豊作・大漁を祈願する行事です。大人の女性の唄に合わせて、揃いの晴れ着姿の20人ほどの少女達が古風で優美な踊りを披露します。国指定重要無形民俗文化財でユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

「舞扇」と綾竹に鈴と短冊をつけた「チャッキラコ」を使い分けて踊る舞は、「初いせ」、「チャッキラコ」、「二本踊り」、「よさき節」、「鎌倉節」、「お伊勢参り」の6通りがあり、これらを総称してチャッキラコと呼びます。

起源として二つの伝説が伝えられています。一つは、海南神社のご祭神藤原原盛公の奥方盈渡姫が、村の娘たちに教えたというもの。もう一つは、源頼朝が三崎来遊の際、磯取りしていた親子に舞を所望し、母親が唄い、娘が舞ったというものです。

●同時期(1月)開催のその他の祭り

汐神楽(鎌倉市材木座海岸)／2018年10月11日
福踊り(小田原市根府川/神山神社)／1月13日

more! カナガワ

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

特別演奏会 ベートーヴェン・ディスカバリー(レクチャーコンサート)

2017年12月15日(金) 19:00 神奈川県立音楽堂
指揮・お話: 鈴木秀美 ソプラノ: 中江早希 アルト: 布施奈緒子
テノール: 谷口洋介 パスパルトン: 多田羅迪夫 フォルテピアノ: 小倉貴久子
ベートーヴェン/ミサ・ソレムニスより、交響曲第9番より、晩年の弦楽四重奏曲やピアノ作品 他 *作品より抜粋した一部を演奏
全席指定6000円 12/22(金)開催の第九公演と同時申込みで割戻あり
神奈川フィル・チケットサービス 045-226-5107 www.kanaphil.or.jp/

神奈川近代文学館

スポット展示「久生十蘭資料～近年の収蔵資料から～」

2017年12月9日(土)～2018年1月21日(日)月曜(1/8開館)・12/28～1/4休館
1952年に「鈴木圭水」で直木賞受賞、ユーモア・ナンセンス小説、探偵小説、捕物帳、SF、歴史小説、漂流記、さらに冒険小説や幻想小説など様々な小説技法を駆使して多くの作品を残した作家・久生十蘭(1902～57)の魅力、ミツ洋子氏から寄贈された資料をもとに紹介する。
常設展「文学の森へ第3部」同時開催 観覧料: 一般250円
TEL.045-622-6666 www.kanabun.or.jp

神奈川県立近代美術館 葉山

白寿記念 堀文子展

2017年11月18日(土)～2018年3月25日(日)月曜(1/8、2/12開館)・12/29～1/3休館
未知のものを求め、自然と生命を描きつづける日本画家・堀文子の清新な世界を紹介。初期作品や絵本の原画をはじめ、メキシコ、イタリア、ネパールなど世界各地への旅や、四季と草花のうつろいを描いた代表作を展示し、その芸術と人間像に迫ります。
一般1200円 20歳未満・学生1050円 65歳以上600円 高校生100円
TEL.046-875-2800 www.moma.pref.kanagawa.jp

神奈川県文化課

地劇ミュージカル公開コンペ

2018年1月28日(日)14:00～17:00 神奈川県立青少年センター
公募により選出されたミュージカル3団体により「地劇」の公開コンペを行います。
*各地の歴史・伝統・文化に根差した地域発の演劇を意味する「地劇」は、神奈川県マグカル・テーブル座長を務めるマーケティングコンサルタントの西川リゅうじん氏による造語です。
入場無料 TEL.045-210-3806 http://magcul.net/

My Roots My Favorites

荻野由美子
(オルガニスト、神奈川県民ホール)
オルガン・アドバイザー



写真提供: 横浜みなとみらいホール

©Atsushi Yokota

ヨーロッパの教会で経験した響きは
忘れがたい体験でした。

高校生の時に、パイプオルガンが設置されたNHKホールがオープンしました。当時そのオルガンを演奏する様子がテレビでけっこう放送されたんです。足を使って演奏する低音の広がり、多彩な音色に耳を奪われ、5段も鍵盤があってどうやって弾くのかしら、と興味を持ちました。小さな時から教会に通っていたこともあり、オルガンを弾くことで新たな可能性が開けるかもしれない、やってみよう、と思い立ったのが、始めたきっかけです。

その後、東京芸大のオルガン科に進学し、卒業後教職に就いたのですが、留学したくてドイツで2年間学びました。いろいろな教会で親切にいただき、オルガンを弾かせてもらえたんです。石造りで天井の高い教会、そこで生まれる響きを全身に浴びるようにしてオルガンを弾く機会は、日本ではほとんどありません。本当に忘れがたい体験でした。また、さまざまなオルガンを見たり弾いたりするため、地図と教会のリストを頼りに田舎の小さい教会を訪ね歩きました。ひょっとして1600年代から使っているのでは？ とい

うような古びた鍵束を渡されて、ゆっくり一日弾いていいよ、と放っておかれる、なんていう機会にも恵まれました。

いたるところに教会があり、オルガン作品が礼拝の中に自然に組み込まれ、信仰と生活に密着して存在しているのを目の当たりにしました。そして、コラール*の旋律それ自体が、ヨーロッパの人にとっては馴染みの深いメロディーなんだ、ということを実感しました。

帰国してからは、このオルガンの魅力をキリスト教国ではない日本でいかに伝えていくかを考えて活動しています。その音色に癒されたり元気づけられたりして、一人でも多くの方がオルガンを好きになってくださったら嬉しいですね。

(聞き手: 結城美穂子)

荻野由美子 Yumiko Ogino

神奈川出身。東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻、およびデュッセルドルフ音楽大学卒業。オルガンを越川真純、島田麗子、廣野嗣雄、J.ゲッフエルトの各氏に師事。現在、カトリック碑文谷サレジオ教会オルガニスト、神奈川県民ホール、および東京都北区北とびあオルガン・アドバイザー、洗足学園音楽大学講師。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

*コラール: ドイツ・プロテスタント教会の讃美歌のこと。マルティン・ルターが宗教革命にあたり、それまでラテン語で歌われていたものを、会衆一同で歌えるよう自国語(ドイツ語)にするべき、と主張したことに端を発する。

REVIEW

KAATキッズ・プログラム2017 「不思議の国のアリス」

2017年7月22日(土)～8月6日(日) KAAT神奈川芸術劇場〈中スタジオ〉

演出・振付・出演:森山開次

原作:ルイス・キャロル テキスト:三浦直之 衣裳:ひびのこづえ 音楽:松本淳一
出演:森山開次 辻本知彦 島地保武 下司尚実 引間文佳 まりあ



©宮川舞子



KAATが毎年力をいれてプロデュースしている、キッズプログラム。今年は演出・振付を手がける森山開次を筆頭に、テキストに演劇界・映像界から熱い注目を集める若手作家三浦直之や日本を代表するコスチューム・アーティストのひびのこづえなどの魅力的なスタッフが勢ぞろい。出演者にはシルク・ドゥ・ソレイユのワールドツアーメンバーとしても活躍した辻本知彦や、ザ・フォーサイズ・カンパニーのメンバーとしても活躍した島地保武など海外でも高く評価されるダンサー陣が集結。「アリス」の世界に子どもから大人まで魅了され、たくさんの親子連れにご来場いただき、連日満員のうちに幕を閉じました。来年の夏は全国ツアーを予定しています。

お客様の声

ハートの女王のドレスがふうせんですばらしかったです。おどろもはげしいところややさしいところがあったのですばらしかったです。(小学生女子)

アリスがダンスが上手でかわいかった。ぶたいの小物がすごかった。いしょうがキラキラしていた。本からとびだしたみたいだった。(小学2年生女子)

コンテンポラリーを見たのは初めてでしたが、不思議の国のアリスの世界観がすごく伝わってきて、夢の中にいるような楽しさとワクワクと見ている気持ちよくなるような伸びやかな動きや表情が印象的でした。(30代男性)

公益財団法人神奈川芸術文化財団をご支援いただいている方々

公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員制度を始めとしたさまざまなご支援の仕組みを通じて、広く皆さまからご寄附・お力添えをいただいております。

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング/株式会社浅岡装飾/アサヒビール株式会社/アズビル株式会社/学校法人岩崎学園/株式会社ヴォートル/株式会社エス・シー・アライアンス/株式会社NHKアート/株式会社勝利庵/一般財団法人神奈川県教育福祉振興会/公益財団法人神奈川県結核予防会/神奈川県信用保証協会/株式会社神奈川弘文社/株式会社神奈川保健事業社/神谷コーポレーション株式会社/カヤバシステムマシナリー株式会社/川崎北ロータリークラブ/川本工業株式会社/かをり商事株式会社/株式会社共栄社/株式会社ケイエスピー/株式会社KSP/株式会社合同通信/コトフキシーティング株式会社/株式会社サンナイオートメーション/株式会社シグマコミュニケーションズ/株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局/株式会社清光社/月島機械株式会社/株式会社テレビ神奈川/東工株式会社/ナイス株式会社/株式会社日建設計/日産自動車株式会社/日生商工株式会社/日総ブレイン株式会社/株式会社野毛印刷社/パナソニックESエンジニアリング株式会社/平安堂薬局/株式会社ホテル、ニューグランド/一般社団法人本牧関連産業振興協会/丸茂電機株式会社/三沢電機株式会社/森平舞台機構株式会社/ヤマハサウンドシステム株式会社/株式会社有隣堂/株式会社豊商會/株式会社ユニコーン/株式会社横浜アーチスト/横浜新都市センター株式会社/横浜信用金庫/弁護士法人横浜パートナー法律事務所/横浜ビルシステム株式会社/株式会社ワイイーシーソリューションズ(匿名;3社)

永年個人賛助会員 川村恒明 **個人賛助会員** 味田健一/畔上 譲/岩間良孝/岡田博子/黒瀬博晴/小山明枝/高岡俊之/橋本尚子/藤原靖也(匿名;4名)

協賛・協力

能舞台協賛 ナイス株式会社

協力 神奈川総合設備株式会社/神奈川ヨト自動車株式会社/崎陽軒/株式会社東芝/株式会社野毛印刷社/株式会社富士住建/三菱地所株式会社(敬称略 2017年10月16日現在)

ご寄附・ご協賛・ご協力のお申込み・お問合せ: 本部経営企画課 045-633-3760 www.kanagawa-arts.or.jp/support/

劇場の達人 眼鏡

「ヘア・チケットで一緒に」

え・ユキナ



Kame かながわメンバーズ 登録無料!
KANAGAWA members メルマガ無料配信
チケットの先行予約が可能
登録は WEB で! www.kanagawa-arts.or.jp/kame

神奈川芸術プレスはここにあります。
神奈川県内の主な公共施設の情報コーナー、首都圏の公共ホール・公立図書館・博物館・書店・銀行等に配架しております。
WEBでも読めます! www.artspress.jp

MAGCUL 神奈川県発、文化発信ポータルサイト
MAGCUL マグカル ドット ネット
MAGCUL MAGCUL.NET
MAGCUL PROJECT HAWAII



神奈川トヨタは、地域社会に貢献する活動の一環として
「かながわ水源の森林づくり」に企業参加しています。



PRIUS

神奈川トヨタ

神奈川トヨタ本社お客様相談テレホン
☎ **0120-212119**
<http://www.kanagawatoyota.com>

編集後記

暑すぎ寒すぎで、今年は秋がない! という間に、誌面にはクリスマスから新春の公演が並びました。PRESSの情報がご家族や親しい方と過ごす時間づくりのお役に立てれば嬉しいです。(電子) 取材で元町へ。街も芸術も「らしさ=only oneの魅力」のあるものが輝くのですね。(倉)